

保幼小の連携を深める為の保育者の資質について

The Attributes of Nursery Teachers for Promoting Cooperation among Nursery Schools, Kindergartens and Elementary Schools

(2017年3月31日受理)

三好佳代子 勘藤まり子*
Kayoko Miyoshi Mariko Kando

Key words : 保育者の資質, 就学前教育, 小学校, 保護者, 連携

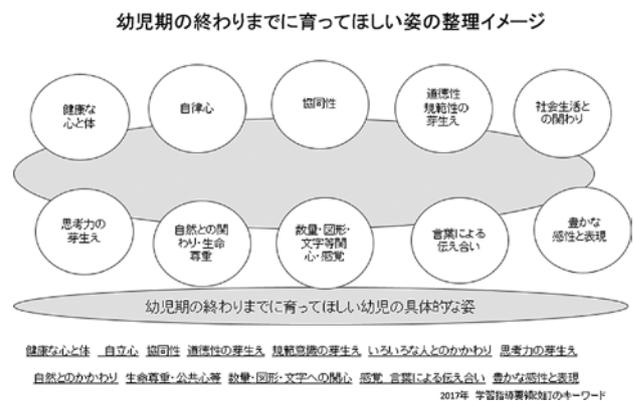
要 旨

子どもたちはもとより保護者も教師・保育者も小学校に入学することに不安を感じていた。保護者・保育者は幼児教育の育ちが重要だといわれているが、小学校までにどんなことに、どこまで子どもたちが、自立していただけるのか、幼児期に育った力を基にして小学校をスタートさせていきたい、という思いが保幼小の連携の大切さが言われるようになってきた。25年前から子どもが個性を發揮しながら豊かな自己表現を図れるように研究をしてきているが、まだ全国には浸透していない状態だということが最近の情報で分かった。連携を深めるためには、保育者の資質も影響するのではないかと考え、保育者の資質について研究していく。

岡山県教育委員会が平成27年5月に実施したアンケートから『小学校教育の指導で、特に困っていること』について。

- ① マイペースや自分勝手に行動するなど、皆と一緒に行動がとりにくい。
- ② コミュニケーションに課題があり、教師や友だちとうまく関われない。
- ③ 着替えや持ち物の整頓など、身の回りのことが自分でできない。
- ④ 習得している知識や、学習への理解が均一でない。
- ⑤ 食べ物の好き嫌いが激しく、時間内に給食を食べ終えることができない。
- ⑥ 45分間席について学習することができず、教室を立ち歩くことがある。
- ⑦ きまりやルールを守ろうとする意識が低い。
- ⑧ 保護者の子どもへの関心が低く、コミュニケーションを図ることが難しい。

以上8項目が小学校の困り感としてアンケート結果に出ていた。学習指導要領改訂の幼時期の終わりまでに育ってほしい10の姿について、8項目を参考に考えていきたい。



幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿から考えると

- ・道徳性・規範意識・思考力の芽生えとある①④⑥⑦の項目

*岡山市岡山っ子育成局保育・幼児教育課

- ・いろいろな人とのかかわり・言葉による伝え合い・協同性の②⑧の項目
- ・健康な心と体・自立心・生命尊重・公共心等③⑤の項目

をどのように支援していったらよいかを研究していくことが保育者の資質の向上になるのではないかと考えた。

道徳性・規範意識・思考力の芽生えについて

- ① マイペースや自分勝手に行動するなど、皆と一緒の行動がとりにくい。
- ⑥ 45分間席について学習することができず、教室内で立ち歩くことがある。
- ⑦ きまりやルールを守ろうとする意識が低い。

※発達に遅れがある幼児であるか、何らかの障がいがある幼児である場合は、その幼児にあった支援が必要になってくると思われる。

保護者と共に幼児との信頼関係をつくり関わり、集団に入れる訓練をすることも大切なことだと思う。また、乳児期からそれぞれの子どもに合った配慮・気持ちに寄り添いながら、自分で良いことや我慢することが理解できるようにすることが大切なことだと思う。

- ④ 習得している知識や、学習への理解が均一でない。
- ※家庭・保育所・幼稚園（認可・無認可・小規模・大規模）認定こども園等様々な所から小学校に入学してくるので均一でないことがあると思う。その中でも家庭が落ち着いて、幼児が中心に置かれた家庭とネグレクトや貧困な家庭で育った幼児では、差が在ると思う。そのような差を理解して、幼児が伸び伸びと自分を発揮できるような環境を設定すること、幼児の変化の気づきを感じる資質を持つことが必要になってくると思う。

いろいろな人とのかかわり・言葉による伝え合い・協同性について

- ② コミュニケーションに課題があり、教師や友だちとうまく関われない。
- ⑧ 保護者の子どもへの関心が低く、コミュニケーションを図ることが難しい

※非言語で自分を表現していた乳児期の親子関係からの影響もあると考えられる。保護者に自分の子どもとの関わり大切さを知らせることが、今の時代に必要な

ことではないかと思う。又、保護者と共に保護者の思いも理解できる事も必要になっているのではないかと思う。

健康など体・自立心・生命尊重・公共心等について

- ③ 着替えや持ち物の整頓など、身の回りのことが自分でできない。
- ⑤ 食べ物の好き嫌いが激しく時間内に給食を食べ終わることができない。

※基本的な生活習慣について保護者と共に毎日の繰り返しの中で身に着け、自分でできた、達成感を感じさせるようにするのが必要だと思う。最近の保護者は孤立して育児に対して不安を持っている、又自分が経験していないことは分からないと言われる保護者も多くなっているので寄り添うことも必要となっている。

『就学前の時期（5歳児3学期）までに、幼稚園・保育所・認定子ども園で子どもに身に着けさせておくべき資質』として

- ① 挨拶や返事がしっかりできること
- ② 自分のしたいことや必要なことなどを、言葉で伝えることができること
- ③ 先生や友だちの話を、しっかりと聞くことができること
- ④ 着替えや持ち物の整頓など、身の回りのことが自分できちんとできること
- ⑤ ひらがなが読めたり、自分の名前が書けたりすることができること
- ⑥ 一定時間（30分程度）、静かに椅子に座ることができること
- ⑦ 意欲的に新しいことを吸収しようとする姿勢をもつことができること
- ⑧ 好き嫌いをしないで、一定の時間内に食事を終わることができること
- ⑨ 決められた決まりやルールを守ることができること

平成28年1月発行

豊かな育ちにつながる保幼小接続に向けて

岡山県教育委員会

保育者は保護者や、職場の同僚・地域の人たちなどさまざまな「人」と接することが一般職業とは少し違い、子どもとの関わりの中、待ったなしの対応が求められる。人的余裕がない中、新任研修が行われない中、戦力として役割を求められる状況で、ストレスを抱え込んでしまう。また、キャリアのある保育士も時代の流れについていけず、身についた保育を通し、自分と違った方法を受け入れないで新人と同じようなストレスを抱えている場合もある。

しかし、「子どもが好きで保育士になることが夢だった」という保育士も多く、日々子どもたちのために頑張っている保育士にどのような資質を要求すればいいのだろうか。

保育者にとって、地域にとって、次に繋がる小学校などにとって、どんな資質が必要なのであろうか。

子ども達の学びを支援する

- ・子どもがそれぞれ異なった思いを持って参加している。
- ・それまでの学習経験や生活経験の影響を受ける。
- ・子どもの学習経験をどのように構成したか。
- ・子どもの事実をふまえ、子どもの知的発達を保障する。

保育者に学びの連続性をたもつために保育者として

○保・幼・小の教育の連続性・一貫性

生涯にわたる人格形成の基礎を培うために

- ・幼児の健やかな成長のために豊かな環境を与えて発達を助長する。

(幼児期は遊びの中での学びを大切に教育している)

楽しいことや、好きなことを集中することを通じて、さまざまなことを学んでいく段階。小学校では、教科等の授業を通した学習で学ぶことについての自覚を持ち、集中する時間とそうでない時間との区別をつけ、課題を受け止め、計画的に学習を進める段階になる。

と記載されていた。

保育者に保・幼・小の連携についてのアンケートを実施

1. 「小学校の指導で、特に困っていること」についての結果(原文のまま)

○保育者も家庭と連携をとりながら、子どもと関わるようにしたり、個人差があることを自覚したり、障がい

についての知識を身に着けたりしていかなければならない。家庭での子どもの育て方(環境)も変化してきているのではないか(経験年数1年)

○集中力がないなどその通りだと思う。もっと一人ひとりとコミュニケーションをとったり、その子に合った保育を考えなければならぬと思う(経験年数2年)

○子どもにも個人差があり、保育園では伝えられることは伝えるように努力している。小学校に入学して環境が変わる中で子どもたちは頑張っていると思うのでしっかりと支えてあげてもらいたいと思います。(経験年数4年)

○保育園生活で、0歳から、生活習慣や決まりを統一し、確立させていくことで、子どもたちの意識も変えていけると思う。各保育者の指導や家庭状況によって均一にはできないが、幼い頃の指導の積み重ねと、保・幼・小と違いがあまりないようにする事や、流れをきちんと作ることが大切だと思う。(経験年数5年)

○保育園での生活を通して基本的な生活習慣を身に着させ、きまり事やマナーを守れるように様々な経験の中で意識付けができるようにしていきたい。(経験年数5年)

○一人ひとりに目を配れない事も現実にはあり、完璧に出来ないまま小学校へ就学している子どもも居ると思う。保育園や幼稚園での生活だけではなく、家庭での生活習慣も大きく関係してくると思うので連携は大切だと思う。(経験年数8年)

○小学校の指導に困っていることは、年々増えてきていると感じています。集中時間が短いことが悩みでどのように保育していったら良いか日々悩んでいます。(経験年数11年)

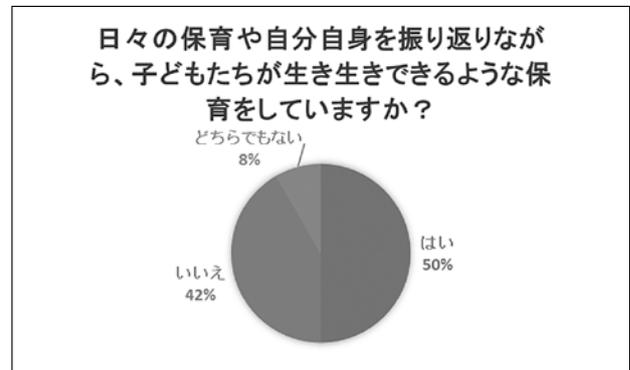
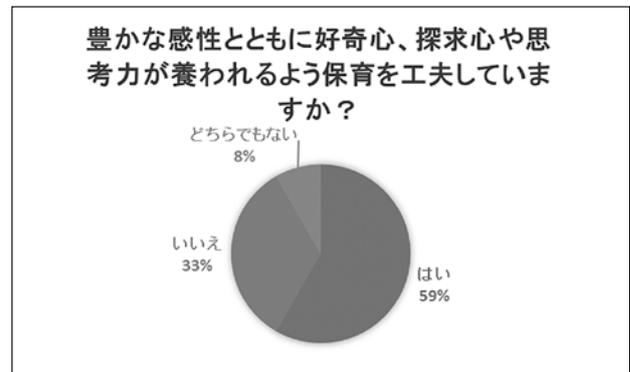
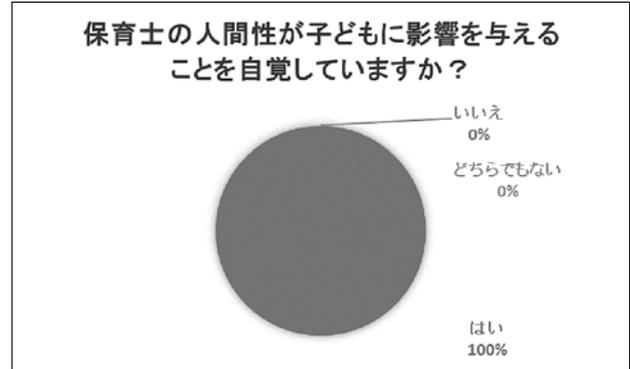
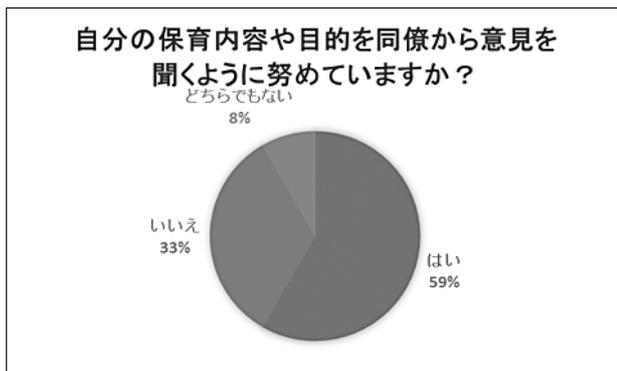
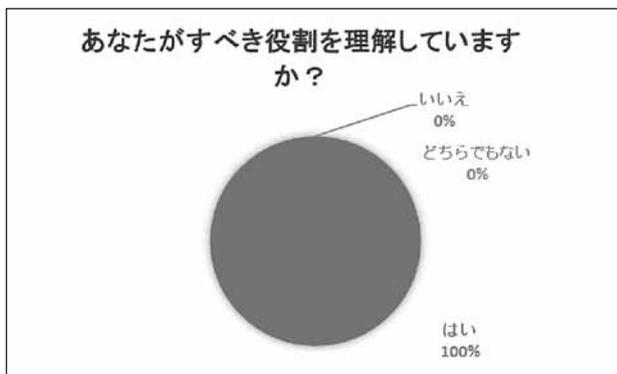
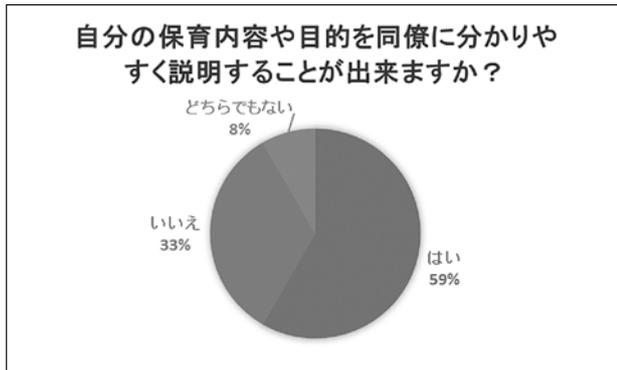
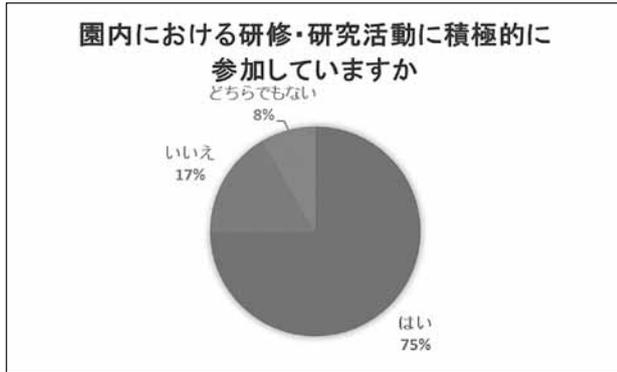
○核家庭が多く、自分たちの思うような好き勝手な生活が増えているように思う。保育園でも色々親にお願いしてもなかなか聞いてくれず、何度もお願いしたりしている。子育てに対しても一生懸命ではないような気がする。家庭が協力してくれないと大変だと思う。(経験年数12年)

○家庭に協力を頼むが、認められない場合も多いので就学以後に子どもがしんどい思いをしていると思う(経験年数15年)

○幼児期から大人と信頼関係を作り、基本的な生活習慣や

ルールを知らせていくことが大切だと思う。(経験年数17年)

2. 「保育園では子どもたちに生きる力をつけるための保育士の資質について」



考 察

アンケートの結果から保育士としての経験年数から研修に参加するというのが、年数が増えるに従って参加数が減少している。又、現在複数担任が多く保育の計画を立てるのも、相談もなく内容を決めていることが多いようだ。経験から、発達に合わせた対応はできているが、集団の中ではこうあるべきだという考えが強かったり、子どもの捉え方がまちまちだったりするので、PDCAを各クラスで進めていくことも必要ではないか。

子育て支援をする授業で学生に企画を作成している時いろいろな意見が出て、集約するのに時間は掛るが納得

萌文書林

して行動できていた。自分たちで企画を立て行動してみると、いろいろな気づき・反省が分かり次の回では学生は自信を持つようになるとともに謙虚に準備・片づけもできるようになっていた。

保育現場でも日々の保育で時間の余裕もなく一生懸命なのは理解できるが、不満を持ちながら仕事をしていくのは、子どもたちに良い影響を与えない。保育士こそ人的環境なのでいつも笑顔で保育が楽しいと感じるために、同僚と共に保育の振り返りをして、保育をどうより良くできるか、足りない部分をどう補うか、マンネリになっていないかを話し合う場を持つことも大切ではないか。

子どもたちの背後には保護者がいる。保護者はどのような思いを持っているのかを考えてみる必要がある。わが子はかわいいと思っている保護者がほとんどだと思うが、それぞれの状況の差はある。保護者に対して「今日はこんなことができましたよ」「これからこんなことをしていきたいと思いますが」一人ひとりに言えるような方向性が分かると記録に書きやすくなると思うし、子どもものを理解している証にもなると思う。

「すべての子どもたちに最善の利益」とは一人ひとり子どもたちが輝けるように、自分の気持ちが自由に表現できることなので配慮することが保育士としての資質として必要だと思う。

私が思う保育者の資質とは子どもたちに対して何気ない心遣い、子どもたちの今を楽しく大切に「やりたいこと」「伝えたい事」「遊びこむ」体験をして自己統制できるようにしていくことではないかと思っている。保幼小の連携について就学前がまちまちだったのと同じように子どもたちを支援するためには、保幼小の事を知る・分かり合う・職員の繋がりを深める・カリキュラムをつなげる事が必要だと思う。

引用参考文献

1. 無藤 隆：学習指導要領改訂のキーワード 明治図書
2. 岡山県教育委員会：豊かな育ちにつながる保幼小接続に向けて
3. 民秋 言：保育士のための自己評価チェックリスト

